

語林類集

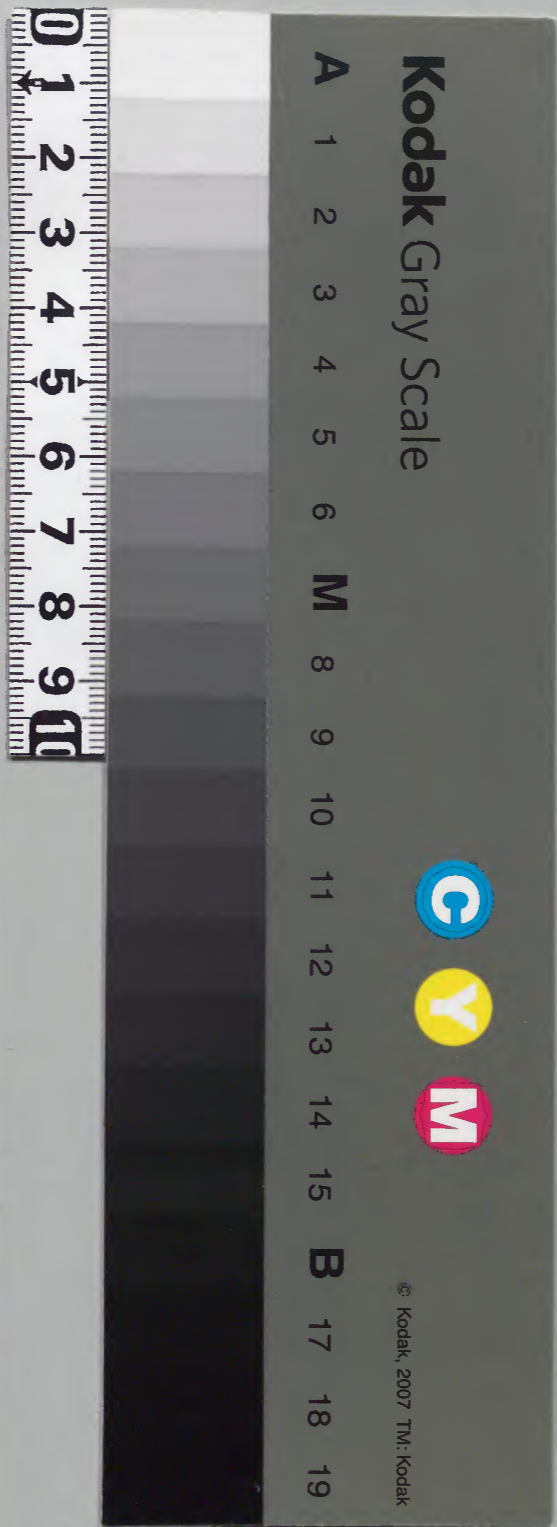
満味武

|      |     |       |  |
|------|-----|-------|--|
| 和書門類 |     |       |  |
| 二〇冊  | 一〇函 | 二八六三號 |  |

|      |       |    |
|------|-------|----|
| 内閣文庫 |       | 和書 |
| 二〇函  | 二八六三冊 |    |

|      |           |    |
|------|-----------|----|
| 内閣文庫 |           |    |
| 番號   | 和 22863   |    |
| 冊數   | 20 ( 16 ) |    |
| 函號   | 208       | 30 |

十六



教部省  
文庫印

林類彙卷之十六

未行

まの部

清水濱臣輯

圖書  
大庫

圖書  
日中

汝之

二言

万二<sup>十六</sup> 吾妹兒尔戀乍不有者秋芽之咲而散去

流花尔有猿尾○万十一世二 申○同<sup>三</sup>世 申○同

同<sup>六</sup>世 同○同<sup>七</sup>世 同○同<sup>十</sup>世 同○同<sup>十二</sup>世 同

○同<sup>八</sup>世 同<sup>十</sup>世 同○同<sup>一</sup>世 同○同<sup>一</sup>世 同○同<sup>一</sup>世 同○同<sup>一</sup>世 同○同<sup>一</sup>世

同○同<sup>十四</sup>世 同○同<sup>十七</sup>世 麻之乞安礼母○字保 同○同<sup>十</sup>世 同○同<sup>四</sup>世



山家下

山のまに月まはるとききあきさちちのまにまゝ

清輔尚菫舎記 清輔

ちのちの 後のまもはきれりり又もはまのま

拾遺貞外

あのはま—くいつか—くはまのまのま

同下

長—まのま—まのま—まのま—まのま

拾玉三

まのまのまのまのまのまのまのまのま

詞龍難下 行記

しせまはまもみは—梅のち—ゆ—まのま

○まのち 月宴 四十五 ちのまのまのまのまのまのま

○牛取 え出—まのま—まのま—まのま

海を 真麻

夫木七 公朝

まのまのまのまのまのまのまのまのま

○

海を 尤右

山家下 聖季

まのまのまのまのまのまのまのまのま

海を 真美カ

まのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのま

てナハシ  
てナハシ  
てナハシ



海に 海にノ畧

拾遺草上

く見をたして事のもちてく風山はにうき夜きしき夕朝の花  
続詞元 倭傳にうきし 妹岡法伴  
しあはれもさるめぬきの月さう人のさうを畧とほはに

○

海く 目方也。今ヨリ昔ライハルハテセ

字部保 いうにうきとほの世にんきへのゆみ

うきまね 前ノ字ヲ後人ノ心ニテヤ 〇美方  
ハト書ヒカメタルニヤ

集るめきけ 〇大和物語はちの小将の也

書ヒカ 〇大和物語 六番 〇美方 〇美方  
メリカ 〇大和物語 六番 〇美方 〇美方

おぼろりきとえきうく。

海集

海集 前山 〇大和物語はちの小将の也

〇大和物語はちの小将の也

一一一  
一一一  
一一一  
一一一  
一一一  
一一一

海

拾遺草三

海集のきしあはれはちの小将の也

海集のきしあはれはちの小将の也

海集のきしあはれはちの小将の也

○漫 女 女 馬井丁の夕暮にのろふ詠はるもささる

あゝ夕とのろふ 馬井丁 〇同 馬 ばるはる

あはる 女戴ノ娘ノ母 〇同 馬

後拾遺四

あはる 女戴ノ娘ノ母 〇同 馬

〇金葉 下 題 みくはのにははのつはり

青つら 拾遺難 〇同 馬

う 拾遺難 〇同 馬

トアリヲサシカ

ヘテ傳ハルセ 〇同 馬

〇古事記 應神加志能布迹 紀同

吾カ尊ハ天皇ト云心 〇  
国栖カ天皇ヲ申詞也

三言

はきえ

竹取 全難上 〇同 馬

〇 全難上 〇同 馬

〇

まけサ

映衣ニ上 五十 六 〇 馬





海に松 又藤

続詞意上 仁和寺文

うきものあつしきにはなれしききりあつた

○

まゆ字

思作日記 海舟の船と人もさうらうらう

海に力

糸居

古雜上

うきものあつしきにはなれしききりあつた

海舟雜一 七条伝

うきものあつしきにはなれしききりあつた

海に

うきものあつしきにはなれしききりあつた

六帖

伊勢集

拾遺神樂

うきものあつしきにはなれしききりあつた

○ 鐘居タルハシ 圖居

ト云 説イカ

海に

万代春上

士御門後守朝

うきものあつしきにはなれしききりあつた

○

まが 月

源 柏木 多けをふさりに海へつゝ、海へ

海へ

五十二世四

海へつゝあまのつゝ海へつゝの丸に去るつゝとら

○五九 長き 海へつゝ丸を以てえ○同十八 長き

海へつゝ丸を以てえ○同十八 長き 東屋

海へつゝ丸を以てえ○同十八 長き ○今

昔廿五 装束モ不鮮テ丸座ニテ有ケレハ

拾遺三 皇太后のちけにちの海へつゝ丸を以てえ○同十八 長き

同五十四

海へつゝ丸を以てえ○同十八 長き

十卷二 侍女

海へつゝ丸を以てえ○同十八 長き

○

海へ 全屋

枕冊子 海へ

海へつゝ丸を以てえ○同十八 長き

○

四言



云風御のまゝに  
侍ルハ是モテフリテヲ誤歟ト云國基

用口

林葉ニ

拾玉四世七方

同同ハウ

坂而不舍意

はくすの袖にも意のこころに海のうねをさす

坂修而つ

くまをかゆふのまのまはるはさるあはれ

夫木六

紅のまの海風の岩つはまのまはる

讀伎集

いづれもちとせぬんまはるはるはる

○

カキワサ  
テウワタ

はくす

輸物

三代実録仁和元年十月廿三日甲戌天皇御紫

宸殿右近衛右衛門右兵衛三府并右馬寮献物

是去五月六日武德殿前競走馬之輸物也○拾

遺雜秋天禄四年五月廿一日圓融院のみろく

不ふに海もまうてらんかともあり。はくすを七月

七日かま。同。右大臣俊之のまはる裁命はく

るはくすをうとねる猪のまはるはるはる

○頭昭拾遺抄注勝負ノ一ハ勝ヲサ負ヲサ  
トテスル也

後拾遺抄 ミヤノキミ  
頁方のミヤノキミの録をミヤノキミにシテミヤノキミ

○

はさささ

万代雜三 家隆  
河原のミヤノキミの後のはさささにミヤノキミの録をミヤノキミ

はささ

源 孫合  
いさからはさささささささささささささささささささささささ

あささささささささささささささささささささささささささささささささささささ

取子のえにさささささささささささささささささささささささささささささささささささ

一 三条  
はさささささささささささささささささささささささささささささささささささ

ま 田丈ニヨミサヤニハ 後世也

全雜上田家老翁  
はさささささささささささささささささささささささささささささささささささ  
十載

はささささ 町口

大鏡一 石山  
其家ハ士師ハはさささささささささささささささささささささささ

〇

はらり

後拾春上 茶室  
花みつとよのくに

〇

はらり

待遠

修雅

〇 枕冊子 十廿八 待遠に

はらり

都士産 木のちりきり うちりきり けいごに

はらり

同

あまのね山 ぼんりきり

同

宗久

はらり ね ね ね ね ね ね ね ね

〇

はらり 同使

万

五三廿六  
山にちりきり ねのちりきり

○コハ、訛ハ、松カ  
ヤ

まじり

士ニ集下

その海のははりしはるきしににのまひり

夫木世五海人御集 女御淑子内親王

はしりしあまのきつひはるきしににのまひり

○夫木世五海人部セエエ 考 〇六而審判詞同頭昭

陳状〇僻業抄〇

はるか方 眼皮

和名

○枕冊子三九ナツキハハ

免もくくはるか方ぬもうま〇遊仙窟

○源栢木 ほかさ方のとあそつりきさほも〇

はるめ 守目

後拾遺三あほははるめきしてはるめ

きり

はるか

万代雜四 為家

そののよののまのきりしににのまひり

○続世継 橘のまもり  
あまのほろはるのほろはる

ふーまー〇

五言

はるるを equal 辞に

千神そのち 祢豆に はるる 〇 拾遺哀傷 中絶  
之敷大はるる かくまに 〇 同 右兵佐のふり

はるるうみ 枕上

全葉雜上 枕うみかき 〇 保憲女集ま

くくうみにあもしききみちを人のあいさるりれ 〇 同  
下物うみ 傍のうきうきうき 〇 枕冊子 廿四  
上あうに 中畧 物とれ 〇

はるるを 枕箱

拾遺雜上 女房朝月 拾遺に 〇 物おを 〇  
色うりま 〇

はるるあー 町足駄

拾五四 母のうらみ 〇 町足駄 〇





はろちんく

拾遺三 あまのこ

皇女のまゝにあらはるはろちんく あまのこ

曾丹集 あまのこ

○小町集 長 あまのこ ○枕冊子

草ははろちんく

精吟日記 あまのこ

○

六言

はろちんく 備君

宇部保 あまのこ 皇國の帝ははろちんく

○源 桐 あまのこ 右大臣の女御のまゝにあらはる

○小侍後集 正月

十日 あまのこ

○ あまのこ

はろちんく あまのこ 食物のまゝにあらはる

宇部保 あまのこ 是のまゝにあらはる

日記 ありて海に人きりてをさるる人。

はる〜〜〜 狂々

第几 月 毎  
十六

は川のうらみ 松屋

万代秋上 大まほほ実綱  
蟬のきりぎりすのうらみもなるもきよの木のきりぎりす

は川のうらみ

主二集下巻 於氣  
は川のうらみもきよの海にききぬ神もさるる女

同巻山道

きよのうらみもきよの海にききぬ神もさるる女

○ 続詞 冠 阿波國司波國の足跡に山下は煙と子  
銘をつくりて免る月と免る。 良暹法師

君がけも多き〜〜山道よまの煙に〜〜多き〜〜

○ 八雲御妝異名部

○ 続詞 冠 人のせうき〜〜きり〜〜返りにわらき〜〜

のつら〜〜糸あしき〜〜さき〜〜れ〜〜お返〜〜松の煙の

きのくもあかぬ〜〜きり〜〜返りに 玄龍聖人

きよのうらみの紅海〜〜きり〜〜返りにきき〜〜うら〜〜れ〜〜人

○ 著聞 三後白河院 熊野詣に各代の宮に何れも





通 還城樂 行幸 還御 用之 夜半 樂 兼和御歌 宗明

樂 御願 供養 上 海青樂 南池院 船 越天樂 意高麗

新蘇利古 放生會 御樂 常武樂 同 ○中務内侍 用

記 廿四秋 出たに 云き ろいひ まを けい た し も ち け ま さ ○

義尼 まよ 舟のかきまじり まじり ち い ち い ち い ○

ほ ま の め の り の 糸 真青新糸 又こわ こわ 糸カ

○ 万代秋上 柳光 柳光に は ま の り の 糸 けい た し ま の ち けい た し ま の ち

十一言

春の末に杖をつらせ

春深之 え 所 せ に ほ ころ し みる に と あ り き ぬ ま の ち

の も の つ ぎ を つ ら せ ま ち に

を に り ぬ ま の ち を つ ら せ ま ち に あ り き ぬ ま の ち



みの郊

二言

みふ 御封

みふ 兄とて女  
十 源 女 女 侍 多うきものり ちりり 〇

御給 年官 年爵

三言

みか 免 見 醒

庭のきく いたるき みるき せむき せむき 〇 源  
あけ 〇  
子初

みーふ 水

拾遺草上

秋を人いれよの風さしききみーふはき。甲子の夜

万代集 仲美

しきし田子もきまのきしきしきし麻須香井衣ふらふら

士二上 廿七

みーふ

みーほ 御修法

七壇のー  
長口のー

五月 廿二 七壇の御修法長口の御修法〇紫田記

五壇のー

五壇の御修法〇五月 廿三 長口のー〇源氏

みけー 御厨子〇下ノ廿屏ナリ

枕冊子十ウセテ その次にいふかきりーの事にあれと〇

同十ウセハ 〇

みさち

いささ日記 〇

みはさ 御覧

五月 廿四 〇

のけ馬のきり〇源 女 〇



き上馬ともも。小馬余婦集。はまのきまに  
くのみちあはし。あつれの。ま  
○同。はまのきまに。ま

みまの 見物

月尊 免つらぬ。みまの。

四言

みまの 水命。水配。

古事記云次天之水命神次国之水命神  
訓分云  
久麻理

みまの

みまの 氷山。みまの。

四角ミツワケトアル。課也。枕冊子

○王筵十二詳説

六帖

月詠ニ 經靈

修禪意 數巻

地あひらひ。みまの。

六帖同

十巻一 基後

みまの。みまの。みまの。

○

みち(一)

みち(一)

散木

みち(一)

〇

みち(一)

都(一)

みち(一) 道橋

隆信集下

〇

みち(一)

みち(一)

〇

みち(一)

〇

みち(一) 水傳

みち(一)



みつき 耳附の心ツキニオホコルト云ハキニ同シ  
袂衣一下カハナハシヨメトハシノツキニオホコルト云ハキニ同シ  
〇

みづり  
拾玉一巻

〇和名  
いほこり<sub>いほこり</sub>ふく<sub>ふく</sub>の<sub>の</sub>み<sub>み</sub>の<sub>の</sub>こ<sub>こ</sub>の<sub>の</sub>こ<sub>こ</sub>  
〇和名

みづり

住<sup>ニ</sup>物語 ナニナニ ナニナニ ナニナニ ナニナニ ナニナニ

五言

みあき

順集順集のの条中ののみあれし  
夫木七常丹集夫木七常丹集四月中  
長秋詠草下  
神代神代 いにちきり いにちきり いにちきり  
五代神禊

〇河海抄賀茂祭前河海抄賀茂祭前日日於於垂迹石上於垂迹石上有神事号有神事号御御  
形形 御御阿阿礼礼ハハ御御生生也也 〇花鳥花鳥ニニああききハハ玉玉依依姫姫のの  
別雷別雷ををううららふふ おををりり おををりり おををりり  
御御生生とともも書書則則ふふ

一草  
一の目  
一の先

ちきあきもくろくかん形も書り ○保憲女集 文

しほきもくろくかん形も書り ○枕冊子 九十三冊中みあれ み

あきのせんト 人名也此人今昔ニ見エ タリ新古今雜上ノ作者也

山家集下 ちきあきもくろくかん形も書り ○保憲女集 文

○みあき山 万代神祇若水 ○拾苴抄下 未 神阿礼

限賀茂一社 ○新古今神祇みあきに集り

宝治四年 首座 ちきあきもくろくかん形も書り ○保憲女集 文

夫木七 行家 みあきもくろくかん形も書り ○保憲女集 文

六帖二 人あき あきもくろくかん形も書り ○保憲女集 文

○夫木七みあきもくろくかん形も書り ○保憲女集 文

夫木八 志法 時集あきの巻に引かえて取にけりなむ

漢道海啼 為忠百々 為業 ちきあきもくろくかん形も書り ○保憲女集 文

夫木世三 公朝 ちきあきもくろくかん形も書り ○保憲女集 文

みあき山

八雲みさの山 大中女将異名 ○後撰雜一云兼輔朝

以宰相中將より中納言に降つて又の年のそらのうま  
ふらのあまのたはかりしきまふれと云ふの事あり

兼輔朝臣

みさの山ははれと云ふはかのうまの

○頭注密勅 いづれの野中の清方の素 云ふ山を近遠と

りとの古事談を枕に も万葉古今にも本文に

きこはるはきりてはふりていふ事あり

字々 ○拾遺雜賀 ○月詠九雜下 ○後拾 雜三

和泉 式部 ○続古賀 後鳥羽院 下野 ○後撰三女将実忠

みさの山ははれと云ふはかのうまの

にいし多ちてはかりしれいとの女

○ きこはるはきりてはふりていふ事あり

みさの山

拾遺三上

みさの山ははれと云ふはかのうまの

○掃部式 下廿二 御川水神春秋祭料 ○

みさの山

御集長

山家下 放生金

○

みちのく 其道... (vertical text)

みちのく 田舎守

後拾遺 家集同 (vertical text)

子ニ集中廿六 時多... (vertical text)

みちのく 其道... (vertical text)

さとのぬきえ ぶの利とふも... (vertical text)

事... (vertical text)

みちのく 火災

天武紀上 十才 四々 夜々 矢火 處多 同下 失

火 〇 玉うのほ十一 廿二 安元三年四月廿八日の

火災に 〇

みちのく 三途

源 松風 あま... (vertical text)

云果報若畫還墮三途 〇 地獄餓鬼畜生 花鳥 〇

みゆ  
新朝 隠倫  
あぢくしむのさきさきいみゆみぬらくるにたにあらはるる人

○  
みゆきみ

つくとも若き序いむらするにむちけりかきせ。

みゆのさき

統詞危下 和帝き詔  
あぢく免しむのさきさきいみゆみぬらくるにたにあらはるる人

○  
みゆきみ

紫集 ちりまのしむのさきさきいみゆみぬらくるにたにあらはるる人  
師のいみゆみぬらくるにたにあらはるる人

○ 頃 さきさき  
○ 同 横笛 みゆきみ

さきさきいみゆみぬらくるにたにあらはるる人  
あぢく免しむのさきさきいみゆみぬらくるにたにあらはるる人  
みゆきみ





みくら

守部保 奉系君 七月七日に...

一にちあきく...

つまきく...

ちあきく...

みくら 御左御收

源 領 〇 同 於 出 〇 大和物語...

におはせ...

みくら 三日色 〇 藤上

隆信集下四十九 〇...

〇

みくら

〇 都土産...

〇 小嶋...

〇...

みつきのあや

今俗麻ヲ水ニ漬スヲ...

万代三 中綱三長方

綾々おの...のあやのきく...

○

みつあや

未詳恐誤字

美見根合

さの...のあやのきく...

の...の...

みつあや

枕冊子

らあのみや中お将...

太神宮儀式帳

○中務内侍日記

一に...のあやのきく...

新に...のあやのきく...

○盛衰記世一公卿殿上人近衛宮御繩女ノ末

ニ至ルテテ老タルモ若モ密甲帛ヲ著シ弓箭

ヲ帯メ打立ケリ○延喜式綱丁

○安存云大舎人助也百寮訓要狀に大舎人寮

行幸の時御綱...風筆の

御綱を...

みづかき

トツてテ草ト同物カ 伊部了考合

士ニ集ト

みづかき

○

みづのけしの馬

みづのけしの馬ハシラ唐國より傳りて射平のりとの

と云ふ事

みづのけし 即漂渡と

万代抄上 中系御覽

みづのけし

ナ言

みづちきのみ

源 行葉 災 ちきのみ 枕冊子 の

みづちきのみ

ちきのみ

のタをえ

みづのはくさい

万代抄上 頭字

みづのはくさい

みのろはる

後撰泰上

万代雜五

列して

保寧女集

まら葉のうき山にはうらみのもろはる

袋中子

うらみは海のまきももろはる

是は前大相国侍中某ト云者大亡之後弟

僧ト云ニ異体ノスカタニモミエケルハ

後撰

しるしのまら葉の家まらかんのろはるもぬえ

新十

みのつねはる

病

隆信集下

まら葉のつねはるもまらかんのろはる

○

みよあめいぬか

拾玉五

みよあめいぬかはるまらかんのろはる

新六

みよあめいぬかはるまらかんのろはる

夫木乾

同同

寂蓮

都ノタツミ  
新ノミナシ

新古交 塚政太政大臣  
六而番 羽合四

みよきまのり

古今

かへりて

万代 萬代  
かへりて

〇

一言

みよのり

後拾部 諸 之

と

みよのり

〇 家集の文遠紀一

九言

みよのり

みよのり

十言

二

散本

みづはちをさる

源 須广

十一言

みづきあしきり

尾 初尾 五才 同 同 三月 同 四月 裏 三十一

あれハ事ノ... 神ノ別

之丹を... 山 五月

し... 同 同 註子 源 若

下... 神

あしきり

みづのえの

新古雅中 三位李能

あめえの... 神

続後拾春上 権奈 七大臣

新... 神

新後増秋下

神

○契沖云丹後熊野郡熊能神社

本... 謝郡

○本居氏云

あしきり





一、  
○大和物語  
○

出 無期

源 柏木 師ハ出立に出久き事ハ...

○同 舟

○大和物語...

○讚岐日記...

○今昔廿七十九

出 宗

山家下 宗 出立...

○ 宗...

出 果

一 爲 注拾遺一 ○ 一 秋 堀而森 ○ 兼 尾の村

○ 同 師打

○ 同 兼

○ 同 兼

一 一 ス、キ  
一 一 キク  
一 一 ハキ













○ 五月蟬声送麦秋

いーいーいー 虫掃虫下

古老口實傳常明寺勤役事一切経虫掃 無定日 祿直寺

僧等勤仕 ○ 之七月中

ムシホシ

いーいーいー

コシラヘルセ ○ タ、糸ナトニヨラスシテ物  
ヲツクルナムス フロ云庵ナムス フノムスフ  
モタ、ツク ○ 花いーいー 波部  
ルナナリ

後拾遺雜 四ノ子日トハ云々

まろく人のもろくろく 雲をいーいーいー 雲をいーいーいー

馬内侍

多れをいーいーいー 雲をいーいーいー 雲をいーいーいー

○ 枕冊子十十八 雲をいーいーいー ○ 拾遺雜春候

をいーいーいー 山をいーいーいー 雲をいーいーいー ○ 後

四三十七 雲をいーいーいー 雲をいーいーいー 雲をいーいーいー

行葉のいーいーいー 雲をいーいーいー 雲をいーいーいー ○

いーいー花

続古叙教弘長元年六月亀山の仙洞あり如法字經一



付一時十種供奉の致花は一位自身調してまゝに  
うゑ花に 入道太政大臣

しんぎんきんらまうとねい 法の花りのまほしきにまゝに

○宇部保 国讓 東まゝに白く花しんぎんきんらまうとねい

ほうねいまのまゝにまゝに白く花のほろりしんぎんきんらまうとねい

らまのまゝにまゝに黒方を土まゝに沈のまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

○続拾雜下藻壁門院のまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

六の花雪

韓詩外傳云凡草木花多五出雪花独六出○

しれ車

棧車○空車

頼政集

返迎車

のせしゆゝあつてそまきし終るもうのしれははる

○宇郊保 夏系系 しふ車にこそ一ほつてまきまき

○うけらふ日記 しれ車につけてあるき木ちりちり

ていとをらき中をりあつ○宇法拾遺十三中たふち

はふそりまてんをこしむれにまきまきにしてはつとむれ

其多にありあつてしれ車つたにやまてつみ出んと

○枕冊子 ぬけぬきまの 月のいとあつてにやうぬき車に

あひまき トアルチ 月のあつてにしれ車はつてつと

にのりありく 又 月夜にしれ車ありき 春 別条 =

出セ ○ 此聖人雜役ノ空車ヲ持テ 春曙木 =

此牛ヲ得テ喜テ車ニ懸テ寺ノ修造ノ料ノ杖

木ヲ令引ト

拾遺物名 しれ車

しれ

ム子ロミケ  
ム子ノオキ所十  
クサワリ  
ム子ツブク

赤深集 けらぐらうとふらもつたてゝさきをひら

ませたて

しほろけしけりくかきとあつたれにのりしひもさき

○源 徳角 いづれもあつたんとあつたけしけりも○同

権 しほろめあつたけりしけりしけり○同 野分 しほろつらと

ぬるらりしきも

六言

しうつら

兼花 浅緑 殿めつらりさいたそ免かたきしめしう

きぬりしきもあつたけりしけりしけりしけり

しう

しうまに 三三三三三三三三三三三三三三三三三三

八雲御杖 通信しうまに

しうま

新家集下 新六 けりしけりしけりしけりしけりしけりしけりしけり

夫木草 三三三三三三三三三三三三三三三三三三

きぬりしきもあつたけりしけりしけりしけりしけり

○拾葉云蛇ノキヌヌキタルヲ虫ノ垂緒ト云  
ナリ○

しほむら

宇部保<sup>上</sup>吹<sup>上</sup> またしほむら ゆいし  
免<sup>しほむら</sup> あつし ○葉<sup>珠</sup>

つら<sup>しほむら</sup> ゆいし あつし ○拾遺雜上 解 ゆいし

人<sup>しほむら</sup> あつし ゆいし ○著  
聞十一画 罔麗景殿繪 合 右<sup>しほむら</sup> あつし ゆいし

して<sup>祢</sup> あつし ゆいし あつし ゆいし  
に<sup>しほむら</sup> あつし ゆいし あつし ゆいし

しほむらの神

和名産靈 ムスヒノカミ

拾雜<sup>衣</sup> あつし ゆいし あつし ゆいし  
若<sup>衣</sup> あつし ゆいし あつし ゆいし

人<sup>衣</sup> あつし ゆいし あつし ゆいし  
人<sup>衣</sup> あつし ゆいし あつし ゆいし

○取<sup>衣</sup> あつし ゆいし あつし ゆいし  
一<sup>衣</sup> あつし ゆいし あつし ゆいし

むねきふゆ

後拾遺四 後三年院

むねきふゆのむねきふゆをききし

○葉花 むねきふゆ ○後頼朝傳同 ○契云院をむねし

き、形にむねきふゆ、若し舟臣、多むねに舟中、むねきふゆを

むねきふゆ、如くむねきふゆをむねきふゆ、むねきふゆ。

十言

むねきふゆ

長明無名抄上巻のむねきふゆをききし

○葉花 疑 〇後頼朝傳同 〇契云院をむねし

〇葉花 疑 〇後頼朝傳同 〇契云院をむねし

睦語

ムツカタリ

〇葉花 疑 〇後頼朝傳同 〇契云院をむねし

〇葉花 疑 〇後頼朝傳同 〇契云院をむねし

〇葉花 疑 〇後頼朝傳同 〇契云院をむねし

長明家集

〇葉花 疑 〇後頼朝傳同 〇契云院をむねし

〇

しやのみはら

月詣集

小侍後集

しやのみはら

拾遺貞外下

韻字題詩句妓樓花綻映紅錦樵

徑蔽生踏紫塵○下等集可考○

しやのみはら

波部己出

兼花根合

しやのみはら

ムロノカリタ

六帖 一先

きののくぬのしやのみはら

千秋下 源兼昌

しやのみはら

○

十言

しやのみはら

尚書會記 しやのみはら

十六言

紫式部地獄に於

宝物集四マナカリハ紫式部カ虚言ヲ以テ源  
氏物語ヲ造リタル輩ニヨリテ地獄ニ墮テ若  
患忍ヒカタキ故ニ早ク源氏物語ヲ破リ捨テ  
一日經ヲ書テ暗ヘシト人ノ夢ニ見エタリケ  
ルトテ哥讀共寄合テ一日經書ヲ供養シケル  
ハ覺エ給フテ物ヲ〇今物語云或人の夢に吾  
三休もぬきぬけぬのやぬきぬきえぬきぬき  
ときつねももそ紫式部とてあつたをのりつ  
つたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
事つたつたつたつたつたつたつたつたつたつた

多佛といふ方を巻毎に人々多しきしを  
うらみきつたつたつたつたつたつたつたつた  
桐葉にぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき  
とつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
養一はつたつたつたつたつたつたつたつたつたつた  
権大御宗家

法のむにされもやぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき







